

Salon

Vol.105 2016年11月 冬号



ホール3Fアーティストラウンジ内壁画 ポール・ギアマン作「馬とヴァイオリン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 周防亮介
- 03 Phoenix Presents — 2017年度 ティータイムコンサートシリーズ
- 05 Pick Up
- 06 Phoenix Spot
- 07 Essay de say — “モノ”と“もの” 波多野睦美

2017年2月、新企画「サンデー・サラウンド・サロン」に登場 若手ヴァイオリン奏者 周防亮介さん

19世紀ヨーロッパの貴族の邸などで開かれ、文化や芸術、哲学や政治思想を育んだ「サロン」。その進取の気性と寛いだ雰囲気や現代に蘇らせる、ザ・フェニックスホールの新シリーズ「サンデー・サラウンド・サロン」が来年2月、いよいよスタートする。その幕開けを告げる初回到登場するのが、ヴィルトゥオジティと精神性のある見事なバランス感覚で注目を浴びる21歳のヴァイオリニスト、周防亮介。当シリーズでは、フロア中央に設けられた舞台を聴衆が取り囲む特別レイアウトを取るだけに、俊英の美しい音色と瑞々しい音楽創りが、一層つぶさに感じ取れよう。「精神的にも、体力的にも、普段のステージとは少し違った、新鮮な感覚で臨みます」と語る周防。バッハとフランクの傑作に、クライスラーとパガニーニという過去のヴァイオリン・ヴィルトゥオーゾによる作品を配したプログラムを通して、「ヴァイオリンの多彩な魅力を、味わっていただければ」と力を込める。

(取材・文:寺西 肇/
音楽ジャーナリスト)

「サンデー・サラウンド・サロン」は、若手実力派2組が登場。2017年2月19日(日)午後2時開演。周防は第1部に出演、ピアノは三又瑛子。第2部はクアルテット・ベルリン・トウキョウが出演。入場料S席3,500円(友の会3,150円)、A席3,000円(友の会2,700円)、B席2,000円(友の会1,800円)(指定席)。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

[プログラム]

【第1部】ザ・ヴィルトゥオーゾ

一 周防亮介ヴァイオリンリサイタル

パガニーニ:ロッシーニの「タンクレディ」のアリア「こんなに胸騒ぎが」による序奏と変奏曲 作品13 MS77

J・S・バッハ:無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第2番 二短調 BWV1004

フランク:ヴァイオリンソナタ イ長調 ほか(予定)

【第2部】

「飛翔」の弦楽四重奏

一 クアルテット・ベルリン・トウキョウ

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調「ラズモフスキー第2番」 作品59-2

バルトーク:弦楽四重奏曲 第3番 ほか(予定)

追求続ける、自分の「音」を

—新企画の“トップバッター”になりますね。

こういった舞台設定だと、普段よりもいっそう、お客様を近く感じられると思います。今から、すごく楽しみです。

—どういったプログラミングに？

前半は、クライスラーとバッハを無伴奏で。そして、後半はピアノとのデュオで、フランクとパガニーニを、と考えています。当初はシューベルトの「ソナチネ」など、「サロン」を意識した選曲も考慮しましたが、最終的には自分が今、弾きたい作品(笑)に収まった感じですね。それぞれ時代やキャラクター、テクニクが全然違うし、ヴァイオリンの様々な魅力をお伝えできると思います。

—今回のパガニーニやクライスラーもそうですが、周防さんがステージで披露されるプログラムには、必ず過去のヴィルトゥオーゾの作品が含まれていますね。

お客様も、ヴィルトゥオーゾ・ピースをととても楽しんでくださるし、今回もステージの雰囲気にとても合うと考えました。クライスラーなど、ごく短いんですけど、彼自身が偉大な演奏家だったので、楽器のことを知り尽くして書いていることを実感します。そして、瞬時に「感じられ」て、お客様も聴き入ってしまう。ヴァイオリンの魅力が、ぐっと凝縮された音楽ですね。

—バッハはいかかですか。

実に難しいですね。国や楽派によっても、様々な奏法があって、まず自分はどの弾くべきかを決めなければならないし、「何拍目に重みを置くべきか」といったような、(バッハが作曲のベースとした)舞曲ごとの特徴を捉える必要もありますし、すごく時間がかかる作業が必要になります。かたや、本当に美しいなあ、とも思いますね。

—フランクのソナタの魅力とは。

近代のヴァイオリンとピアノのための作品の中で、最高峰に位置付けられているだけあって、一言で表すのは難しいのですが、やはり魅力的で美しい。昔から弾きたかったのですが、「まだ早すぎる」と言われ続けて…。実は今年に入って、やっと本格的に取り組み始めたんです。この作品が持つ、独特のフランスの薫りや空気感、色彩…年齢を重ねれば、もっと深みが出てくると思うんですけど、今は21歳の自分が理解し、表現できる限りのフランクをご披露したいと考えています。

—共演の三又瑛子さんは、どんなピアニストですか。

一言でいえば、すごいピアニスト(笑)。とてもエネルギーギッシュで、とすれば、聴き手の耳がピアノにばかり行ってしまふほど、魅力的な音を出されます。周囲のヴァイオリニストも皆、「共演する時は、負けないようにしないと…」(笑)と言っていますね。

—ザ・フェニックスホールで弾いたご経験は？

小中学生の頃に出場した、全日本学生音楽コンクールの大阪大会をはじめ、実は何度かあります。無伴奏やデュオで演奏するのに丁度良いサイズで、響きも素晴らしい。実際に弾いていても、とても楽に音を響かせられる気がしますね。

—ヴァイオリンを始めたきっかけは？

5歳になった頃、子供のためのコンサートに行っていて、休憩時間の楽器体験で、ヴァイオリンに触らせてもらったのが最初です。その瞬間、夢中になって、毎日のように「やりたい、やりたい」と…。でも、母がピアノの教師だったので、「ピアノが家にあるし、こっちにしたら…」と取り合ってくれなかった。7歳になるまで言い続けたら、遂に両親も根負けして、レッスンに通うことになりました。

—少し遅めの入門だけに、すごく練習されたのでは。

毎週のレッスンが、とにかく楽しかった。母が練習のやり方を考えてくれて、20分弾いたら10分休んで…という風なことを1日に20回ほど繰り返していました。

—プロの演奏家になることを意識したのは？

小学校5年生の時ですね。奈良での先生のレッスンを受けるために、亀岡市から京田辺市へ家族ぐるみで引っ越したんです。5時間のレッスンが週3回あるんですけど、その時点で「このまま、やめられないんだろうな」と…(笑)。でも相変わらず、弾くことが楽しくて、全く苦にはならなかったんです。

—演奏家になって良かった、と思う瞬間とは。

正直、練習が大変なこともあるのですが…ステージに立って、お客様が喜んでくださって、温かい拍手をいただくと、そんなことも全部忘れてしまって、「弾かせて頂けて、良かった」と素直に思います。そもそも、ヴァイオリンを弾き続けてゆけること自体、特別なことで、周囲の支えがあってこそ。それだけに、毎回の演奏会へ賭ける思いはとても強いし、無事に終えれば達成感もあるし、その上、お

客様に喜んでもらえるとなれば、本当に代え難い経験だと感じています。

—将来はヨーロッパ留学も視野に入れられているとのことですが、中学3年生の時、スイスでの体験が鮮烈だったとか。

ええ。ザハール・ブロン先生のプライベート・レッスンを受けるために、スイスのヴェルビエ音楽祭に行きました。レッスンはとても厳しくて、10日間、毎日違う曲を持って行くんですが、一度注意されたことができていないと、先生はとても不機嫌になるので、食事も喉を通らなくて…(笑)。当時、私はすごく太っていたんですけど、戻って見たら、7キロも痩せていました。レッスンも良かったし、ダイエットもできて、一石二鳥でした(笑)。

—演奏に臨む上で、最も大切にしていることは。

「音」でしょうか。昔の巨匠たちは皆、ヴィジュアルがなくても、「この人の音だ」と分かる。それほどに、「音」は、重要です。最初の一言を聴いただけで「周防さんの音だ」と言ってもらえるような音を追求してゆきたいと常に思っています。

—将来の目標は？

音楽だけでなく、人としても成長して、色々な事を知り、勉強しなければならないと考えています。そのためにも、例えば、外国に行き、その文化や歴史を知り、経験することも必要だと思っています。そして、グヴィッド・オイストラフのように、大らかに歌えるヴァイオリニストになりたい。心から音楽を歌って、胸に響く音を出せるように。それをずっと頭においておきたいな、と思います。

—今後、新たに取り組みたいレパートリーは？

作品を、どんどん“発見”できれば。近代や同時代の作品にも、挑戦してゆきたい。特に、委嘱などを通じて、作品を自分のものにできれば最高でしょうね。

—最後に、ご自身にとって、「ヴァイオリン」とは？

今やヴァイオリンを持たずに、出かけることは皆無。生活の一部で、身体の一部ですね。それに、私は言葉で自分を表現するのが不得意なので、自分の感情を素直に出せるのが、ヴァイオリンですね。そして、「音楽」だからこそ、救えるものがある。そして、言葉以上に、人の心に伝わる場面もある。とても神聖な存在だと思います。音楽を伝える者として、1人でも多くの人に、その素晴らしさを感じてほしい、と願っています。

周防亮介(すほう・りょうすけ/ヴァイオリン) 1995年京都府生まれ。7歳からヴァイオリンを始める。2008年全日本学生音楽コンクール大阪大会第1位・全国大会第3位。2009年クロースター・シェーンター国際コンクール(ドイツ)第1位。2011年東京音楽コンクール弦楽部門第1位。2015年出光音楽賞受賞。2010年、2011年と2年連続で国際音楽祭「ヤング・プラハ」から招聘され、チェコのリサイタルホールでプラハ室内管弦楽団とチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を協演。また同国各地でのリサイタルにも多数出演し、好評を博した。そのほか、NHK FM「リサイタル・ノヴァ」、テレビ朝日「題名のない音楽会」などにも出演。現在、東京音楽大学3年に特別特待奨学生として在学中。活発な活動を展開している。小栗まち絵、大谷康子、原田幸一郎の各氏に師事。2014、2015年度のローム ミュージック ファンデーション奨学生。

2017年度 ティータイムコンサートシリーズ [121]~[126]



フェニックスならではの、スペシャル・マチネ。通し券なら、1回約2,800円

金曜の午後、上質な音楽をおいしいお菓子・お飲み物と共にお届けするティータイムコンサート。都心に立地し、抜群の交通アクセスで関西一円から多くの皆様においでいただけるホールの特性を生かし、1995年のホール開設以来、お楽しみいただいています。2017年度は6公演。将来が楽しみな若手演奏家の公演を中心にラインナップいたしました。若手注目株筆頭のヴァイオリニスト、次代を担う期待の弦楽八重奏、国際コンクールを制した気鋭の弦楽四重奏、実力派のチェロ、加えて円熟の2台のピアノに唯一無二の世界的ホルン奏者など、自信のアーティストがずらり並ぶフェニックスだけの「スペシャル・マチネ」をお楽しみ下さい。


いずれも金曜日 14:00開演 指定席 お茶・お菓子つき

年間通し券[6公演]合計額¥22,500 一般価格¥21,000 友の会価格¥17,000
(お一人様2席まで)

121 激しくも穏やかに交わる熱情と知性。今、俊英たちの響演が実現。

新倉 瞳(チェロ) & 佐藤卓史(ピアノ) デュオリサイタル

2017年4月21日(金)
一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)




●出演 ●新倉 瞳(チェロ) ●佐藤卓史(ピアノ) ●曲目 ●ブラームス:チェロソナタ 第1番 小短調 作品38
ラフマニノフ:チェロソナタ 短調 作品19 ほか(予定)

カメラータ・チューリッヒの首席ソリストを務める新倉 瞳さん。ソロだけでなく室内楽奏者としても国際的に高い評価を得る佐藤卓史さん。この二人が真正面から向き合って演奏するのはブラームスとラフマニノフのソナタ。この2曲はこれまでに二人が積極的に取り組んできた曲。さらに磨きがかかった演奏にご期待ください。

122 円熟の極み、2台のピアノが奏でる豊饒なる時の調べ。

寺田悦子&渡邊規久雄 ピアノデュオ

2017年5月26日(金)
一般¥3,500(友の会価格¥3,150) 学生¥1,000(限定数)



●出演 ●寺田悦子、渡邊規久雄(以上ピアノ)
●曲目 ●ラフマニノフ:2台のピアノのための組曲 第2番
ラヴェル:序奏とアレグロ ほか(予定)

寺田悦子さんと渡邊規久雄さんはご夫婦であり、二人ともピアニストとして第一線で活躍されています。長年連れ添った二人だからこそ紡ぎだせる豊饒な音楽世界を堪能してください。メーンでは、ラフマニノフのロマンチズムに溢れたとても華やかな曲が選曲されています。2台のピアノならではのダイナミズムをお楽しみください。

123 名だたる国際コンクールを次々に制覇!ノリに乗っている気鋭の弦楽四重奏団が初登場!

シューマン・カルテット

2017年6月16日(金)
一般¥4,000(友の会価格¥3,600)
学生¥1,000(限定数)



●出演 ●シューマン・カルテット
エリック・シューマン(第1ヴァイオリン)、
ケン・シューマン(第2ヴァイオリン)、
リザ・ランダル(ヴィオラ)、マーク・シューマン(チェロ)

●曲目 ●ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調 作品130 ほか(予定)

ポルドー国際弦楽四重奏コンクール優勝、シュベルト&現代音楽国際コンクール優勝など、大躍進中のシューマン・カルテット。その名の通りシューマン3兄弟を中心に結成されたグループで、難曲を軽々と演奏する正確無比で息のあった演奏はまさに圧巻。世界のトップを疾走する弦楽四重奏の最先端を存分にご堪能ください。

124 メンバー全員がソリスト級、実力派若手演奏家たちが奏でるアンサンブルの妙技。

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団

2017年7月14日(金)
一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)



●出演 ●ラ・ルーチェ弦楽八重奏団
大江 馨、城戸かれん、小林吉成、毛利文香
(以上ヴァイオリン) 有田朋央、田原綾子
(以上ヴィオラ) 伊東 裕、笹沼 樹(以上チェロ)

●曲目 ●メンデルスゾーン:弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20 ほか(予定)

次世代を担う若手ソリストたちが集まって結成されたラ・ルーチェ弦楽八重奏団。期待の演奏家たちがメーンで演奏するのはメンデルスゾーンの弦楽八重奏曲。才気溢れる天才が作り上げた名曲中の名曲ですが、この曲を書いたのはなんと16歳の時。まさに若さと若さが進む瑞々しい“メンオク”を存分に味わってください。

125 世界を駆け抜ける新進気鋭のヴァイオリニストと実力派ピアニストによる華麗なる競演。

郷古 廉(ヴァイオリン) & 田村 響(ピアノ) デュオリサイタル

2017年10月13日(金)
一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)



●出演 ●郷古 廉(ヴァイオリン) ●田村 響(ピアノ) ●曲目 ●フランク:ヴァイオリンソナタ イ長調
ほか(予定)

郷古 廉さんは、ティボー・ヴァルガ・シオン国際ヴァイオリンコンクール優勝など、若手ヴァイオリニスト筆頭の注目株。田村 響さんは、ロン＝ティボー国際コンクール1位など、数々のコンクールを制した実力派ピアニスト。メーンで演奏するフランクのヴァイオリンソナタは、叙情性に溢れ、且つ激情が迸る傑作。白熱の演奏を存分にお楽しみください。

126 透き通るように美しい金管の響きと柔らかな琴の音が織りなす幽玄の世界。

ラデク・バボラーク(ホルン) & 吉野直子(ハープ) デュオリサイタル

2017年11月24日(金)
一般¥4,500(友の会価格¥4,050)
学生¥1,500(限定数)



●出演 ●ラデク・バボラーク(ホルン)、吉野直子(ハープ)
●曲目 ●ドヴォルザーク:我が母の教えたまいし歌 ほか(予定)

ミュンヘン国際コンクールに優勝し、「ホルンの神童」と評されたラデク・バボラークさんの演奏は、超絶なテクニックもさることながら驚くほど繊細で柔らかい音色が特徴です。それに、吉野直子さんの幻想的なハープの音色が組み合わせることで、至福の音楽が生み出されます。二人が織りなす幽玄の世界をお楽しみください。



今回は土曜日の発売となります

11月19日(土)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

11月21日(月)
10:00 受付開始
イー・フェニックス
E-PHX優先予約

11月22日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店によるお申込みは11月24日(木)10:00から!

■フェニックス・エヴォリューションシリーズ80

主催 一般社団法人ワンハンドピアノミュージック

2017年5月17日(水)

19:00開演 自由席

一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250)

一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700)

ペアチケット¥4,800(友の会価格¥4,300)

学生前売・当日¥2,000 ※学生券は大学生以下対象。

※友の会割引は無制限。 ※ペアチケットは前売のみ販売。

左手のピアノ音楽史編纂プロジェクト ～バッハを中心とするバロック時代編～

出演 智内威雄、有馬圭亮(以上ピアノ)

曲目 J・S・バッハ:左手のための小前奏曲集(「左手のアーカイブ」プロジェクト 編曲・制作)

J・S・バッハ(ヴィトゲンシュタイン編):シャコンヌ

左手によるピアノ演奏のためのバッハの編曲は、以前からの目標の一つでした。私たちは継続した編曲作業を通して、一つの大きな音楽史を描くことを目指しています。「左手のためのピアノ音楽」には250年以上の歴史があり、スクリャービンやラヴェルといった一流作曲家の優れた作品が多数存在するものの、多くは近現代に集中しています。そのため、鍵盤楽器が発展したバロックや古典期の充実が求められます。「存在しない左手古典的作品を新たに生み出す」という大いなる必要と好奇心に突き動かされながら、バッハへ回帰することは最も自然な選択でした。バッハ作品が有する揺るぎない楽曲構造は、どのような楽器編成にも演奏スタイルにも適応する可能性を持ちます。私たちはそこに左手演奏の特徴を照らし合わせると同時に、「バッハ作品本来の響き」を探る姿勢も持ち続けました。「左手のためのピアノ演奏」を通してバッハに再び巡り合えることは、全ての音楽家にとり驚きであり、喜びになります。このコンサートを通して、片手演奏によるクラシック音楽を学ぶ礎を作り、未来のピアニストたちに可能性と価値を発信します。

一般社団法人ワンハンドピアノミュージック 前身である『左手のアーカイブ』プロジェクトが行ってきた「左手のピアノ作品」の復興事業を引き継ぎ、片手で演奏される鍵盤音楽のもつ豊かさを広く伝えていきます。「苦難の歴史を乗り越えた芸術を、開かれた未来のために」をスローガンに、芸術復興事業による文化発展への貢献、および教育福祉事業による地域社会づくりを行います。



智内威雄(ちない・たけお/ピアノ) 東京音楽大学在学中にミラノで研鑽を積む。卒業後、ドイツ国立ハノーファー音楽大学に入学、その間、グリーグ国際コンクール、マルサラ国際音楽コンクールで入賞受賞。2001年局所性ジストニアが発症し休学・リハビリを開始する。2003年よりドイツで左手のピアニストとして活動を再開する。2006年に広島交響楽団とラヴェルの「左手のための協奏曲」を共演し絶賛され、同年日本デビューをする。驚異的なテクニックと深遠かつ豊かな音楽性で新境地を切り拓く。歴史的楽曲の復興と、片手演奏の普及を目指し「左手のアーカイブ」プロジェクトを設立する。関西テレビ制作のドキュメンタリー番組、NHK制作のドキュメンタリー「ETV特集」、その他メディア各社で特集が組まれる。



有馬圭亮(ありま・けいすけ/ピアノ) 1989年生まれ。4歳からピアノを始める。2010年、大阪教育大学在学中に局所性のジストニアを発症し、左手のピアノ曲の演奏を始める。2012年より左手演奏の普及、復興を目的とする「左手のアーカイブ」プロジェクトで、片手演奏のための教材制作や音楽教室「ワンハンド・ピアノレッスン」での演奏指導、ワークショップを行い、その活動は日本テレビ、関西テレビ、産経新聞、読売新聞などのメディアで特集が組まれる。2013年に現田茂夫指揮、日本センチュリー交響楽団、ラヴェル作曲「左手のためのピアノ協奏曲」の協演を機に、演奏活動を開始。第17回松方ホール音楽賞、奨励賞受賞。

ホール主催・協賛公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- 主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約

- E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

■一般発売

- 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

<http://phoenixhall.jp/>

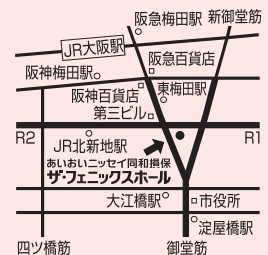
チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約(主催公演のみ)

- ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
- ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- 学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による
お申込み

- ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- 先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はおお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛
公演

《冬のチェンバロ音楽祭2016／アザラシヴィリ生誕80年記念》
トビリシ弦楽四重奏団

主催 冬のチェンバロの会

2016年12月5日(月) 19:00開演 自由席 一般前売¥3,500(友の会価格¥3,150)
一般当日¥4,000(友の会割引なし) 25歳以下&大学院生以下 前売・当日¥2,500
※友の会割引は1会員2枚まで(限定数)。 ※ジョージアワインサービス付



出演 ギオルギ・ババアゼ、チブリアン・マリネスク(以上ヴァイオリン)、
ザザ・ゴグア(ヴィオラ)、林裕(チェロ)

若手指揮者として国内外で活躍する山田和樹氏は「高校1年生の時、アザラシヴィリの曲を飛行機のなかで聴いて涙するほど魅了され、自筆譜を起しピアノでポロポロ弾き続けた…。今も、いつの日かアザラシヴィリ・ブームが到来することを夢に見て」おられるそう。そのアザラシヴィリ作品を関西では90年代から聴くことができます。同じジョージア(グルジア)出身のG・ババアゼさん率いるトビリシ弦楽四重奏団があるからです。今回もモーツァルトとチャイコフスキーの間に、日本初演のアザラシヴィリ小品集が氏の80歳を祝って演奏されます。そしてやはりアンコールは皆さんの大好きな「ノクターン」ですね!!

曲目
モーツァルト:弦楽四重奏曲 第15番 二短調 K421
アザラシヴィリ:弦楽四重奏のための「わが祖国ジョージアの情景」より
5つの小品 <日本初演>
“アプハジアの民謡 アンティツア”、“リリカルな歌”、
“オセチアの踊り シムド”、“田舎の祭り”、“クタイシの歌曲メドレー”
チャイコフスキー:弦楽四重奏曲 第3番 変ホ短調 作品30

発売中

協賛
公演

高橋孝輔 ピアノリサイタル

主催 Museum Piece

2017年2月3日(金) 19:00開演 自由席 一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250) 一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生前売・当日¥1,000 ※友の会割引は1会員2枚まで。



出演 高橋孝輔(ピアノ)

活躍した時代・場所・形態が全て異なる4人の作品から成るプログラムは、「変奏曲」をキーワードに全体の統一が保たれつつ、十分なコントラストに富むものとなっている。主題からの展開力と、作品全体を不備なくまとめ上げる構成力。その2つが不可欠となる「変奏曲」そのものが、形式的にも規模的にも、絶えず変化・発展を遂げている。ピアニストとしても腕に覚えのあった4人には、自らの力量を遺憾なく発揮するための、最適な形式であったに違いない。レアで贅沢なプログラムを、どうぞお聴き逃しなく!

曲目
ショパン:子守歌 変ニ長調 作品57
モーツァルト:ソナタ イ長調 K331(トルコ行進曲付き)
ラフマニノフ:コレッリの主題による変奏曲 二短調 作品42
ブラームス:ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ 変ロ長調 作品24

発売中

協力
公演

非破壊検査ニューイヤーコンサート2017
ローマ春のレガエロ

主催 読売テレビ

2017年1月6日(金) 19:00開演 指定席 S席(1階席) ¥8,000(友の会 ¥7,200) A席(2階席) ¥6,000(友の会 ¥5,400)
※S席は完売いたしました。1階席は丸テーブルでワインを飲みながらお楽しみいただけます。2階席は開演前と休憩時にロビーでワインを楽しんでいただけます。

出演
今井俊輔(バリトン)
榛葉樹人(テノール)
ロザリア・ブシェーミ(ソプラノ)
アヴォス・ピアノ・カルテット(ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)

曲目
ドニゼッティ:歌劇「愛の妙薬」より“序曲”、“トリスタンとイゾルデの物語”
ロッシニ:一粒の涙
プッチーニ:歌劇「ジャンニ・スキッキ」より“私のお父さん”
リスト:「リゴレット」による演奏会用パラフレーズ
ヴェルディ:歌劇「ラ・トラヴィアータ(椿姫)」より“乾杯の歌” ほか

発売中

改修工事に伴うホール休館のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、2018年(平成30年)に舞台機構や照明設備、空調設備等の改修工事を施工することとなり、その間を休館させていただくこととなりました。

この工事は、今後の不具合発生の防止や設備機能維持向上のための重要な工事となります。

つきましては、ご利用の皆様には、ご不便、ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 休館期間 ◆

2018年(平成30年)1月25日(木) ~ 2018年(平成30年)4月30日(月・振休)

〈お問合せ先〉 〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー内
あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール TEL:06-6363-0311(代表) (土・日・祝を除く平日9:00~18:00)

今井信子 presents

アルト・ザ・デュオ — ヴィオラ・声・ピアノで綴る「歌」

ソプラノやテノールと比較して“Alto(アルト)”といえ、どちらかというといふと地味なイメージを抱く人が多いのではないのでしょうか。アルトとは、楽器でいうと中音域、声でいうと女声の低い声域(男声のテノールよりは高い音域)を指します。また、アルト(Alto)はイタリア語で、フランス語にするとヴィオラ(Viola)になります。音楽でいう中音域は、大体がハーモニー担当であり、メロディ部分を担当することはそう多くありません。しかし、ハーモニーが無ければ音楽に深みが出ないことは明白な事であり、中音域こそが音楽の屋台骨として重要な役割を果たしています。今回は、その“アルト”にスポットを当て、その魅力を味わって頂くためのコンサートです。

まずご紹介するのは演奏者について。ヴィオラの今井信子さんはザ・フェニックスホールではもうお馴染みです。世界的な奏者として各国で演奏するのはもちろんの事、世界各地の音楽院で後進を育てている日本を代表する奏者です。波多野睦美さんは、メゾソプラノの歌手としてイギリスの歌曲を軸に、古楽から現代曲まで幅広く演奏されています。その包み込むような柔らかな歌声に魅了される人も多いはず。最近ではNHK大河ドラマ「真田丸」の最後に流れる真田丸紀行でも波多野さんの歌声が堪能できます。そしてピアノは高橋優介さん。東京音楽コンクール第1位、今井さんが惚れ込んだ俊英です。

そんな3人が奏でる音楽、期待せずにはいられません。プログラムのメインとなるのは、ブラームス作曲「アルト、ヴィオラとピアノのための2つの歌」です。この曲は「秘めたるあこがれ」「聖なる子守歌」の2曲で構成されています。どちらも素朴で美しいメロディが特徴で、優しい歌とヴィオラの包み込むような旋律が寄り添うように溶け合う、慈愛に満ちた曲です。そしてもう一曲、ブリッジ作曲「アルトとヴィオ

『アルト・ザ・デュオ—ヴィオラ・声・ピアノで綴る「歌」』は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドヴァイザーの今井信子(ヴィオラ奏者)プロデュース公演。2017年1月19日(木)午後7時開演。入場料4,500円(指定席)、友の会4,050円。学生1,500円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

ラのための3つの歌」。ブリッジはホルストなど同時代の作曲家で、ブリテンの師として知られています。この曲は、死について書かれた3つの詩「遠く、離ればなれになって」「我々の魂は何処へ」「やさしい声が失せたとき音楽は」で構成されています。大きな喪失をテーマにしていますが、悲しいだけではなく、聴いた後に希望を感じられるような美しい曲です。どちらの曲も、中音域の特徴を活かした柔らかく優しさに溢れた曲であり、今井さんと波多野さんにぴったりの楽曲であると思います。

その他にも、マスネの「エレジー」やフランクの「シルフ」など、美しくロマンティックな曲が満載。アルトの魅力を存分に楽しんで頂けるプログラムとなっています。お楽しみに。

(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
チーフ・マネージャー 宮地泰史)



Salon アート・イン・フェニックス

ポール・ギアマン作「馬とヴァイオリン」

ホール3Fアーティストラウンジ内壁画

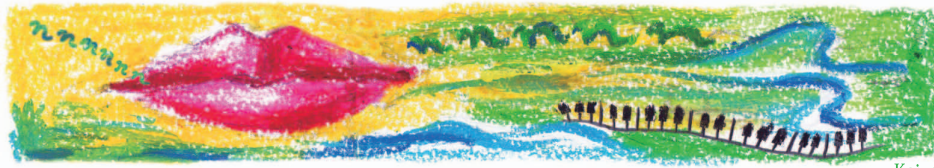
ザ・フェニックスホール3階、アーティストラウンジ内を飾る「馬とヴァイオリン」はギアマン作品としては珍しい「夜」を描いています。暖色の極み赤色と寒色の極み青色を対比させることで穏やかで静寂な夜の光景を見事なまでに表現しています。闇夜に差し込む月明かりが、人、馬、鳥、ヴァイオリンそしてブーケ、それぞれのモチーフを幻想的に浮かびあがらせ、神秘的な雰囲気を一層際立たせています。最初は鮮やかな色彩が目飛び込んできますが、同時に鮮やかな色彩とは似つかない静寂が広がり、穏やかな幸福感が見るものを満たします。ギアマンはいつも人生の優美な面、魅力あふれる面、幸福な面を心に思い描き、制作しました。絵画そのものが「幸福」であり「喜び」なのです。



“モノ”と“もの”

—波多野睦美

普段よく質問されることを中心に、セルフインタビューという形で、11月に出演する公演の魅力について書いてみました。



Keizo Matsui

【声楽家として、声のためどんなことに気をつけていますか？】
 インタビューでは必ず聞かれる質問です。この数年、答えはいつも同じ。
 「特別に気をつけることをしないよう、気をつけています」
 もちろん、中年としては人並みに「体を冷やさない」「暴飲暴食を控える」など習慣にすべく努力しています。あまり一般的でない習慣としては、「声帯マッサージ」でしょうか。声のウォーミング・アップと、ウォーミング・ダウン両方のためです。何の器具も使いません。口を閉じたまま「nnnnnnnn」とモーター音のような唸り声を起こして、声帯を振動させるのです。スポーツ選手が運動の前後に筋肉の整理体操をするのと同じこと。朝目が覚めてすぐ、夜眠る前、歌う前後などは必ずやっています。いつでも知らず知らずのうちに「nnnnnnnn」と音をたてて声帯をリラックスさせてしまうので、公共の場では「唸り声をたてる怪しい中年」にならないよう、気をつけています。

【歌い手さんは身体が楽器だから大変ですね】
 確かにその通りではあります。でも考えてみれば身体のだこも使わない仕事、行為はありませんよね？たとえ指先ひとつ、眼球ひとつであってもそれを使って何かを行い、何かを発するならばその身体は道具であり手段、つまりinstrument インストゥルメントだと思います。もちろん、この身体に内蔵された＜声帯＞という楽器を、外したい！と感じることはあります。美味しいお酒をたっぷりいただく機会などで。声帯を家に置いて、出かけられたらなあ…と。

【どんな歌を歌いたいですか？】
 これは子供の頃から変わっていません。十代後半に聴いて衝撃を受けた「ブルガリアン・ヴォイス」。大地から生えた木の幹のような歌、遠く大陸を渡っていく風のような声。あの率直さに、ずっと憧れを持ち続けています。
 もうひとつは「境界線がない」歌であること。人が笑ったり、喋ったりする、その息の流れがそのまま歌になっていく。

そしてまた歌が吐息になり、笑いになる。その＜あわい＞に魅力を感じてしまうのです。その思いが高じて、高橋悠治さんに「歌と語りか往き来するモノオペラを書いてください！」と委嘱しました。作曲家に委嘱したのは初めての経験でした。

【11月はどんな演奏会ですか？】
 波多野さんは、2016年11月18日(金)19時開演「風ぐるま 2016年 秋～夢のもつれ～」に出演。共演に、ピアノの高橋悠治さん、バリトンサックスの柘尾克樹さん。プログラムは高橋悠治(時里二郎/詩):「鳥のカタコト 鳥のコトカタ」、「納戸の夢 あるいは 夢のもつれ」ほかを演奏します。

すべて日本語、それも関西の詩人、時里二郎さんの言葉だけの音楽会です。後半に演奏する「納戸の夢 あるいは 夢のもつれ」というモノオペラは、前述のような経緯で生まれました。
 何より、作曲者の高橋悠治さんのピアノが、境界のない「水」のような音。歩くこと、本を読むこと、弾くこと、そのどこにも境界がない。初めて生の演奏に触れた時は、ブルガリアン・ヴォイス以来の衝撃を受けました。「こんな風に歌いたい」と感じる、器楽奏者なのです。モノオペラ「納戸の夢」では、その高橋悠治さんの音と時里二郎さんの言葉が溶け合います。

【観客へのメッセージをお願いします】
 演奏者と観客が共同作業で音を織りなすのが、生のコンサート。まるで、一夜限りで消える羽衣のようです。ぜひ、ザ・フェニックスホールの空間で、触り心地を感じてください。

…… インタビュアーと答える人、一人(モノ)でやってみました。モノオペラでも、歌手一人できざまな「もの」になって歌います！

波多野睦美(はたの・むつみ)/メゾ・ソプラノ歌手
 ロンドントリニティ音楽大学専攻科修了。パロックオーケストラと数多く共演するほか、間宮芳生、高橋悠治、権代敦彦等、現代作曲家からのオファーも多い。NHKニューイヤーオペラコンサート、名曲アルバム、クラシック倶楽部などの出演、CD作品多数。最新作は古楽器と演奏した「イタリア歌曲集」。各紙で高い評価を得た。近年は朗読やナレーションの分野でも活動するほか、シュベルト「冬の旅」演奏にも取り組んでいる。11月にはモノオペラ「夢のもつれ～納戸の夢」を東京と大阪で公演。
<http://hatanomutsumi.com>



©Toshiyuki Kohno

